

厚木市立小・中学校の適正規模・適正配置の取組に関する

アンケート調査 報告書

【玉川地区(玉川中学校・玉川小学校関係)】

令和5年3月

厚木市教育委員会

目次

第1章 調査の概要

1. 調査の目的	1
2. 調査方法	1
3. 回答率	1

第2章 アンケート回答

1. 回答者属性	
(1) 児童等の保護者	3
(2) 未就学児の保護者	3
(3) 地区住民	3
2. 設問 ※()内は各設問における回答対象	
(1) 地区の子どもを取り巻く環境(児童・生徒数の減少傾向) [児童等・未就学児の保護者、地区住民]	4
(2) 方針で定めている適正規模の範囲 [児童等・未就学児の保護者]	4
(3) 設問(2)で「適切」「おおむね適切」と回答した理由 [児童等・未就学児の保護者]	5
(4) 設問(2)で「あまり適切ではない」「適切ではない」と回答した理由 [児童等・未就学児の保護者]	6
(5) 学年内でクラス替えができることの必要性 [児童等・未就学児の保護者]	6
(6) 学校規模適正化の検討に当たり重視すべきこと [児童等・未就学児の保護者]	7
(7) 過去1年間に市立小・中学校にどれくらいの頻度でいったか [地区住民]	8
(8) 過去1年間に市立小・中学校にどのような理由で行ったか [地区住民]	8
(9) 学校教育以外で学校が担っている役割等として重要なもの [地区住民]	9
(10) 学校規模適正化に当たり、教育環境の充実以外で考慮すべきこと [地区住民]	9
(11) 各地域に学校を維持すること [児童等・未就学児の保護者、地区住民]	10
(12) 【玉川地域のみ】玉川地区・森の里地区に学校を維持すること [児童等・未就学児の保護者、地区住民]	10
(13) 学校の適正規模・適正配置の取組への意見・提案 [児童等・未就学児の保護者、地区住民]・	11
① 児童等の保護者	11
② 未就学児の保護者	21

③ 地区住民	24
--------	----

3. 自由記述欄 ※各設問における「その他」選択時の記載内容

(1) 設問(2)で「適切」「おおむね適切」と回答した理由 [児童等・未就学児の保護者]	34
(2) 設問(2)で「あまり適切ではない」「適切ではない」と回答した理由 [児童等・未就学児の保護者]	34
(3) 学校規模適正化の検討に当たり重視すべきこと [児童等・未就学児の保護者]	35
(4) 過去1年間に市立小・中学校にどのような理由で行ったか [地区住民]	35
(5) 学校教育以外で学校が担っている役割等として重要なもの [地区住民]	36
(6) 学校規模適正化に当たり、教育環境の充実以外で考慮すべきこと [地区住民]	36

第1章 調査の概要

1. 調査の目的

市立小・中学校の適正規模・適正配置の取組に当たり、学校の統廃合を含めた方策を検討することとしている学校(関連する学校を含む)・地区における今後の方策検討に係る基礎資料として、児童・生徒※(以下「児童等」という。)及び未就学児の保護者や地域住民の皆様の意向や意識を把握するため

※1…本アンケートでは「児童」は市立小学校に通う小学校1～6年生、「生徒」は市立中学校に通う中学校1～3年生を指します。

2. 調査方法

種別	児童等の保護者	未就学児の保護者	地区住民
調査対象	玉川中学校、玉川小学校、毛利台小学校、愛甲小学校※ ² に在籍する全ての児童等の保護者	玉川小学校、毛利台小学校、愛甲小学校※ ² の通学区域に在住する全ての未就学児の保護者	玉川地区に在住する市民(無作為抽出による 1,104人)
依頼方法	調査票を郵送		
回答方法	インターネット上のアンケートフォーム又は調査票で回答		
実施期間	令和5年1月31日～2月17日		同5年2月3日～2月20日

※2…毛利台小学校の全ての通学区域と愛甲小学校の通学区域の一部(愛甲西2丁目の一部)は田、玉川中学校の通学区域に含まれます。なお、愛甲小学校については、玉川中学校の通学区域に在住する児童及び未就学児のみアンケートの対象となります。

3. 回答率

種別	配布数	回答数	回答率
児童等の保護者	725	297	41.0%
うち玉川中学校	(333)	(138)	(41.4%)
うち玉川小学校	(85)	(35)	(41.2%)
うち毛利台小学校	(279)	(110)	(39.4%)
うち愛甲小学校	(28)	(14)	(50.0%)
未就学児の保護者	291	88	30.2%
うち玉川小学校	(33)	(14)	(42.4%)
うち毛利台小学校	(232)	(63)	(27.2%)
うち愛甲小学校	(26)	(11)	(42.3%)
玉川地区住民	1,104	438	39.7%
合計	2,120	823	38.8%

※1世帯につき1アンケート調査を送付しています。複数の児童等や未就学児がいる場合、調査票は最も年長のお子様の区分で集計しています。

例)1世帯に、玉川中学校生徒と愛甲小学校児童の2人がある場合、玉川中学校の生徒として集計

【報告書の見方】

- (1) 調査結果の構成比の割合については、小数点第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを表記しています。したがって、数値の合計が 100.0 パーセントにならない場合があります。また、個別の設問において無回答のような無効の回答がある場合に、回答数の合計と調査対象数が一致しない場合があります。
- (2) 複数選択が可能な設問については、全ての回答数を合計すると回答者数を超える場合があります。
- (3) 本文や表の選択肢の表記について、場合により語句を簡略化しています。
- (4) 自由記述については、未記入や判読が困難なもの、明らかな誤字などを除き、原則として回答いただいた内容をそのまま記載していますが、次に該当する場合は一部内容を修正しています。
 - ① 文字数が多い場合等については全文ではなく、一部を省略したり、要旨を記載したりしています。
 - ② 個人や個別の事例などが特定される内容等は、特定されないよう修正の上で記載しています。
- (5) 調査結果における太枠・太字箇所は、設問の選択項目のうち最も回答割合が大きい項目となります。

第2章 アンケートの回答

1. 回答者属性

(1) 児童等の保護者

① 児童等が通学している学校

学校	全体	
	回答数	割合
玉川中学校	138	46.5%
玉川小学校	35	11.8%
毛利台小学校	110	37.0%
愛甲小学校	14	4.7%
合計	297	100.0%

(2) 未就学児の保護者

① 未就学児が在住している通学区域

学校	全体	
	回答数	割合
玉川小学校	14	15.9%
毛利台小学校	63	71.6%
愛甲小学校	11	12.5%
合計	88	100.0%

(3) 地区住民

① 年齢区分

年齢層	全体	
	回答数	割合
20 歳未満	10	2.3%
20 歳～29 歳	37	8.4%
30 歳～39 歳	50	11.4%
40 歳～49 歳	72	16.4%
50 歳～59 歳	60	13.7%
60 歳～69 歳	84	19.2%
70 歳～79 歳	85	19.4%
80 歳以上	40	9.1%
合計	438	100.0%

② 世帯内における児童等の有無

児童等の有無	全体	
	回答数	割合
いる	71	16.2%
いない	366	83.8%
合計	437	100.0%

2. 設問

各設問の回答対象者は次のとおりになります。

設問	回答対象		
	児童等保護者	未就学児保護者	地区住民
(1) 地区の子どもを取り巻く環境(児童・生徒数の減少傾向)	○	○	○
(2) 方針で定めている適正規模の範囲	○	○	
(3) 設問(2)で「適切」「おおむね適切」と回答した理由	○	○	
(4) 設問(2)で「あまり適切ではない」「適切ではない」と回答した理由	○	○	
(5) 学年内でクラス替えができることの必要性	○	○	
(6) 学校規模適正化の検討に当たり重視すべきこと	○	○	
(7) 過去1年間に市立小・中学校にどれくらいの頻度でいったか			○
(8) 過去1年間に市立小・中学校にどのような理由で行ったか			○
(9) 学校教育以外で学校が担っている役割等として重要なもの			○
(10) 学校規模適正化に当たり、教育環境の充実以外で考慮すべきこと			○
(11) 各地域に学校を維持すること	○	○	○
(12) 【玉川地域のみ】玉川地区・森の里地区に学校を維持すること	○	○	○
(13) 学校の適正規模・適正配置の取組への意見・提案	○	○	○

(1) 地区の子どもを取り巻く環境(児童・生徒数の減少傾向)について

設問	全体		児童等保護者		未就学児保護者		地区住民	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1 知っていた	399	48.9%	126	42.4%	24	27.3%	249	57.8%
2 ある程度知っていた	325	39.8%	135	45.5%	32	36.4%	158	36.7%
3 あまり知らなかった	58	7.1%	27	9.1%	14	15.9%	17	3.9%
4 知らなかった	34	4.2%	9	3.0%	18	20.5%	7	1.6%
合計	816	100.0%	297	100.0%	88	100.0%	431	100.0%

(2) 方針で定めている適正規模の範囲について

設問	全体		児童等保護者		未就学児保護者	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1 適切だと思う	115	29.9%	88	29.7%	27	30.7%
2 おおむね適切だと思う	240	62.5%	185	62.5%	55	62.5%
3 あまり適切ではない	23	6.0%	17	5.7%	6	6.8%
4 適切ではない	6	1.6%	6	2.0%	0	0.0%
合計	384	100.0%	296	100.0%	88	100.0%

(3) 設問(2)で「適切」「おおむね適切」と回答した理由について(3つまで選択可)

設問	保護者全体		児童等保護者		未就学児保護者	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1 児童・生徒の人間関係が深まりやすい	137	15.8%	100	15.1%	37	18.0%
2 豊かな人間関係の構築や多様な集団の形成が図られやすい	123	14.2%	88	13.3%	35	17.0%
3 多様な考え方に触れる機会や学びあいの機会、切磋琢磨する機会が多くなりやすい	118	13.6%	94	14.2%	24	11.7%
4 異学年間の教育・交流活動の機会が多くなりやすい	32	3.7%	25	3.8%	7	3.4%
5 学校行事や部活動等で一人一人の発表や活躍の機会などが多くなりやすい	28	3.2%	21	3.2%	7	3.4%
6 教員の目が届きやすく、きめ細かな指導を受けやすい	181	20.8%	137	20.7%	44	21.4%
7 習熟度別学習やグループ学習など多様な学習形態がとりやすい	15	1.7%	13	2.0%	2	1.0%
8 運動会や文化祭などの集団活動や学校行事に活気が生じやすい	92	10.6%	75	11.3%	17	8.3%
9 様々な種類の部活動等の設置が可能となり、選択の幅が広がりやすい	64	7.4%	47	7.1%	17	8.3%
10 ICT 機器などの授業で使用する教材や教具が一人一人に行き渡りやすい	23	2.6%	20	3.0%	3	1.5%
11 学校と保護者・地域住民が連携した教育活動を展開しやすい	11	1.3%	6	0.9%	5	2.4%
12 PTA 活動等における役割分担などで保護者の負担を分散しやすい	38	4.4%	31	4.7%	7	3.4%
13 その他	7	0.8%	6	0.9%	1	0.5%
合計	869	100.0%	663	100.0%	206	100.0%

(4) 設問(2)で「あまり適切ではない」「適切ではない」と回答した理由について(3つまで選択可)

設問	保護者全体		児童等保護者		未就学児保護者	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1 全教職員による児童・生徒一人一人の把握が難しくなりやすい	12	18.2%	10	20.0%	2	12.5%
2 学校行事や部活動等で一人一人の発表や活躍の機会などが少なくなりやすい	4	6.1%	1	2.0%	3	18.8%
3 同学年の結びつきが中心となり、異学年交流の機会が少なくなりやすい	9	13.6%	6	12.0%	3	18.8%
4 特別教室や体育館、プール等の施設・設備の利用面で、一定の制約がかかりやすい	3	4.5%	1	2.0%	2	12.5%
5 児童・生徒の人間関係や相互の評価などが固定化しやすい	12	18.2%	10	20.0%	2	12.5%
6 多様な考え方に触れる機会や学びあいの機会、切磋琢磨する機会が少なくなりやすい	5	7.6%	5	10.0%	0	0.0%
7 運動会や文化祭などの集団活動や学校行事に制約が生じやすい	1	1.5%	1	2.0%	0	0.0%
8 習熟度別学習やグループ学習など多様な学習形態がとりにくい	6	9.1%	5	10.0%	1	6.3%
9 部活動等の設置が限定され、選択の幅が狭まりやすい	3	4.5%	2	4.0%	1	6.3%
10 PTA 活動等における保護者一人当たりの負担が大きくなりやすい	5	7.6%	4	8.0%	1	6.3%
11 その他	6	9.1%	5	10.0%	1	6.3%
合計	66	100.0%	50	100.0%	16	100.0%

(5) 学年内でのクラス替えができることの必要性について

設問	保護者全体		児童等保護者		未就学児保護者	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1 必要だと思う	228	59.8%	177	60.2%	51	58.6%
2 どちらかといえば必要だと思う	118	31.0%	89	30.3%	29	33.3%
3 どちらかといえば必要ではない	24	6.3%	18	6.1%	6	6.9%
4 必要ではない	11	2.9%	10	3.4%	1	1.1%
合計	381	100.0%	294	100.0%	87	100.0%

(6) 学校規模適正化の検討に当たり重視すべきことについて(2つまで選択可)

設問	保護者全体		児童等保護者		未就学児保護者	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1 長期的に一定の集団規模を維持でき、豊かな人間関係の構築や多様な集団の形成などが図られること	93	16.2%	69	16.7%	24	14.8%
2 通学に係る児童・生徒の負担が大きくなならないこと(必要に応じて通学負担軽減の方策が図られることを含む)	233	40.6%	166	40.3%	67	41.4%
3 通学路の見直しや整備など、通学の安全性が確保されること	144	25.1%	99	24.0%	45	27.8%
4 地域コミュニティと学校との関係が維持され、連携が図られやすいこと	19	3.3%	15	3.6%	4	2.5%
5 教職員の学校運営や校務などに係る負担が軽減されること	41	7.1%	29	7.0%	12	7.4%
6 将来的な学校の在り方を見据え、学校施設の建て替え費用の削減等が図られること	13	2.3%	9	2.2%	4	2.5%
7 どれだけ小規模になっても学校の統廃合は行わず、全ての学校が維持されること	18	3.1%	14	3.4%	4	2.5%
8 学校規模適正化の方策自体を検討する必要がある	3	0.5%	3	0.7%	0	0.0%
9 その他	10	1.7%	8	1.9%	2	1.2%
合計	574	100.0%	412	100.0%	162	100.0%

(7) 過去1年間に市立小・中学校にどれくらいの頻度でいったか

設問	地区住民全体		児童等がいる		児童等はいない	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1 週1回以上	22	5.1%	12	17.1%	10	2.7%
2 月1回以上	26	6.0%	16	22.9%	10	2.7%
3 半年に1回以上	48	11.0%	25	35.7%	23	6.3%
4 年1回以上	58	13.3%	10	14.3%	48	13.2%
5 1回も行っていない	281	64.6%	7	10.0%	274	75.1%
合計	435	100.0%	70	100.0%	365	100.0%

(8) 過去1年間に市立小・中学校にどのような理由で行ったか(いくつでも選択可)

設問	地区住民全体		児童等がいる		児童等はいない	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1 子どもの見送りやお迎え(例: 児童クラブなど)	49	13.9%	40	24.2%	9	4.8%
2 保護者としての活動(例: PTA など)	29	8.2%	22	13.3%	7	3.7%
3 学校運営関係者としての活動(例: 学校運営協議会など)	6	1.7%	1	0.6%	5	2.7%
4 教育活動や放課後活動などのボランティア(例: 学習支援ボランティアなど)	15	4.3%	4	2.4%	11	5.9%
5 学校行事(例: 運動会や発表会、授業参観など)	81	23.0%	54	32.7%	27	14.4%
6 選挙での投票	4	1.1%	0	0.0%	4	2.1%
7 災害時(大雨、台風、地震)における避難	6	1.7%	1	0.6%	5	2.7%
8 避難訓練などの防災関係活動	54	15.3%	14	8.5%	40	21.4%
9 地域(例: 町内会・自治会、子ども会など)の会合・行事	39	11.1%	10	6.1%	29	15.5%
10 体育館や校庭などを利用した活動(例: スポーツ・文化活動など)	50	14.2%	17	10.3%	33	17.6%
11 業務上の関係(例: 学校で働いている、学校と業務上の関わりがあるなど)	8	2.3%	1	0.6%	7	3.7%
12 その他	11	3.1%	1	0.6%	10	5.3%
合計	352	100.0%	165	100.0%	187	100.0%

(9) 学校教育以外で学校が担っている役割等として重要なものについて(2つまで選択可)

設問	地区住民全体	
	回答数	割合
1 児童・生徒の放課後の居場所・活動場所としての役割	191	22.9%
2 地域の防災の拠点としての役割	230	27.5%
3 地域コミュニティや地域のつながりに関わる活動・交流の拠点としての役割	160	19.2%
4 スポーツ・文化・生涯学習の拠点としての役割	69	8.3%
5 地域の歴史や文化の中核的な存在としての役割	35	4.2%
6 地域づくり・人づくりを進めるための地域の核としての役割	71	8.5%
7 子育て世帯等の移住や定住を促進する役割	62	7.4%
8 特にない(児童・生徒の学びの場以外の役割があると思わない)	15	1.8%
9 その他	2	0.2%
合計	835	100.0%

(10) 学校規模適正化に当たり、教育環境の充実以外で考慮すべきことについて(2つまで選択可)

設問	地区住民全体	
	回答数	割合
1 自治会や青少年健全育成会などを始めとする様々な地域コミュニティ団体と学校との連携・協力が図りやすいこと	86	10.8%
2 児童・生徒の放課後の居場所・活動場所、地域防災の拠点など、地域コミュニティの拠点としての機能が維持されること	235	29.4%
3 学校施設の維持管理や再整備に係る経費などを考慮し、適正な規模での施設更新や施設の複合化が図られること	108	13.5%
4 市都市計画における各地域のまちづくりの方針や地域づくり諸計画等との整合が図られていること	50	6.3%
5 将来的に児童・生徒数が減少する見込みであっても、地域コミュニティや地域づくりのため、地域内の全ての小・中学校が維持されること	122	15.3%
6 将来的に児童・生徒数が減少する見込みであることを踏まえつつ、地域コミュニティや地域づくりのため、地域内に小・中学校がそれぞれ1校以上維持されること	162	20.3%
7 特にない(教育環境の充実以外を考慮する必要はない)	6	0.8%
8 よくわからない	22	2.8%
9 その他	8	1.0%
合計	799	100.0%

(11) 各地域内に学校を維持することについて

設問	全体		児童等保護者		未就学児保護者		地区住民	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1 維持すべき	255	31.3%	62	20.9%	24	27.3%	169	39.2%
2 できれば維持すべき	371	45.5%	133	44.8%	39	44.3%	199	46.2%
3 必ずしも維持しなくてよい	172	21.1%	90	30.3%	24	27.3%	58	13.5%
4 維持しなくてもよい	18	2.2%	12	4.0%	1	1.1%	5	1.2%
合計	816	100.0%	297	100.0%	88	100.0%	431	100.0%

(12) 【玉川地域のみ】玉川地区・森の里地区内に学校を維持することについて

設問	全体		児童等保護者		未就学児保護者		地区住民	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1 維持すべき	301	36.9%	58	19.6%	20	22.7%	223	51.7%
2 できれば維持すべき	300	36.8%	105	35.5%	37	42.0%	158	36.7%
3 必ずしも維持しなくてよい	188	23.1%	118	39.9%	29	33.0%	41	9.5%
4 維持しなくてもよい	26	3.2%	15	5.1%	2	2.3%	9	2.1%
合計	815	100.0%	296	100.0%	88	100.0%	431	100.0%

(13) 学校の適正規模・適正配置の取組に対する意見・提案について

① 児童等の保護者(回答数:86 件)

回答区分	No	回答内容
取組の考え方・進め方・スケジュール (54 件)	1	七沢に住んでいます。そもそも、市街化調整区域のせいなのか、この辺りに引っ越してくることを制限していることが原因なのではないかと強く感じています。私たちの身近な方々でも数家庭ですが、七沢がとても好きで、住みたい、と何年か土地や物件を探しておられる方がいらっしゃいましたが、ついに叶わず、他の土地へ引っ越しをされていました。もし、来られたら、一緒に通えるねと話していましたが残念でした。子どもが減ったといいますが、当たり前かと思えます。改善すべきだと思います。今となっては、児童数が少なすぎと感じます。人間関係を学ぶ上でも、統合は賛成いたします。それから、別件ですが運動会の勝ち負け順位なしは、子どものやる気をそいでいます。改善お願い致します。
	2	1学年1クラスとなると人間関係でトラブルがあったときに子ども自身はもちろんのこと、親にも精神的な負担が継続していくことになります。スクールバスを取り入れるなどして1学年1クラスになる前に統廃合していくことが望ましいと考えています。PTA に関しても人数の少ない学校は1家庭当たりの負担が大きく、共働き時代の現状に合っていないと感じます。また統廃合をすることによって教師不足の解消にもつながると思います。
	3	学校の統合により、児童の通学に負担が掛からないようにしてもらえれば良いと思います。
	4	コロナを経験し、将来的にも学校の在り方・教育の在り方は大きく変わると思います。授業のオンライン化、教員の負担軽減、少子高齢化の加速と、今までのやり方や常識は通用しないと思います。「学校」や「地域」という狭い視野ではなく、50 年先の未来を見据えて、必要な箱ものづくりをしてもらいたいと思います。宜しくお願いいたします。
	5	児童が減少し適正規模ではなくなってしまう場合はなるべく早く対応してあげたほうが良いと思います。先生負担はもちろんですが、子どもたちも子ども同士でしか学べないこと、楽しめないこともたくさんあると思います。身近でクラス替えもなくずっと嫌な思い(人間関係で)をし、学校へ行くのが嫌いになってしまった子も知っているのも…。小規模が良いと思う人もいるかとは思いますが、適正規模になった学校で、希望すれば少人数で学べる選択ができるようになれば良いかとも思います。
	6	学校の規模は、ある程度大きなものにして、多様な考え方や生活環境があることを学び、部活動もいろいろあると良いと思います。しかし、1学級の人数については、現在の法律より少人数にして、個々を尊重する対応ができるようにしてほしい。

取組の考 え方・進め 方・スケジ ュール (54 件)	7	変化すること、特に子どもの教育に関わることについては、慎重に対応することが必要で、さらに子どもや保護者だけでなく地域の意見も汲み取らなければならない教育委員会の方々においては、かなり気を配ってくださっていると感じています。以前、小規模な小学校で勤務していましたが、クラス替えのない状態でも子どもたちは当たり前だと思っているので特に不満は言っていないものの、端から見ているとやはり経験する機会が大幅に損なわれていると感じていました。また、中学校進学時も、部活動で学校を選択する生徒が少なからずいるようです。子どもの数が減少傾向で、先生方の負担も大きく、なり手も少なくなっている中で、ピーク時に合わせた体制のままでは良くない(建物の維持費も含めて)のは明らかです。変化には必ず反発もありますし、私自身子どもの通学距離が伸びたら心配などの気持ちもありますが、子どもの数に合わせた学校数にしていくのは当然だと思います。ただ、1クラス 30 人以下学級も引き続き申請していただきたいです。
	8	クラス数が少ない学校は悲しいですが廃校にして、新しい場所に、新しい学校をつくり、遠くなる家庭にはスクールバスの対応を取るなどしてほしいです。大地震の不安もあるので、地震、災害に強い校舎を望みます。子どもたちにとって安全・安心の学校づくりをお願い致します。
	9	各学年ある程度クラス数があり、毎年クラス替えをして、仲の良い子と離れ、新しい人間関係をつくる環境は大切だと思います。それには児童数が減少したら学校統合も必要だと思います。その方が先生の人数も確保しやすいと思います。仕事の関係で、中・高校と進学し、小規模で慣れた環境から大規模の学校生活になり、人間関係が大きく変わる体験が少なかった子が、環境が変わることに適応できず、メンタルが不安定になるのをみてきました。ある程度の学級数があり、毎年のクラス替え、環境を変える体験の大切さを実感しました。また小規模の学年のクラス替えは、人間関係がマンネリ化しやすく子ども同士も協調性を学べず、上下関係が生まれやすかったりします。変わらないコミュニティは親同士もマンネリ化し、不満がたまりやすくなり、SNS での情報交換も増え、他の子どもへの関心が高まり、親が他の子や親、先生へプレッシャーをかけるなどの機会も増える。ある程度大きさがある学校づくりの方が健全になるのではと思います。お忙しい中、説明会お疲れ様でした。参加はできずホームページの資料を読ませて頂きました。これからもよろしくお願い致します。
	10	自分が中学2年の時、森の里中と玉川中で別れることになりましたが、話題(文句)にするのは大人たちだけで、子どもは全てに順応できる子がほとんどです。小学校から中学校へ変わる時に生活する仲間が変わるので子どもには問題ないと想います。ただし、通学の距離が延びることに懸念があります。自分が小学生の時は、毛利台小ができるまで南毛利小学校まで通いましたが、途中まで路線バスに乗りました。中学校では、自転車通学ができる地域がありました。安全性が前提になると思いますが、通学が困難になるようでは困ります。その辺の整備ができてから統廃合の話に移る方が良いと思います。小学 1 年生が迷わず、体力的にも通学できる案をお願いします。

取組の考え方・進め方・スケジュール (54件)	11	そもそも、本件の議論が統廃合を前提での話になっており、維持するための考えが全く無い。更にこの問題を市民に考えさせ、丸投げしているだけです。教育委員会がただ受身の役所仕事をしているだけです。考えてください。税金を払っています。考え、アイディアを出し、思考すること。統廃合を進めた場合、その地域に親子連れは引っ越してこないと思う。更にその地域の過疎化に拍車がかかるだけだと思う。特色をいかして維持し続けるべきだと思う。ただでさえクロームブックの持ち帰りが増え低学年では重くて負担になっているのに統廃合されて通学距離が延びるなんて信じられない。どこが子育てしやすい市だと思ってしまいます。
	12	統廃合などを行うことで、子どもや教員、家庭に負担が掛からないようにしていただきたいです。
	13	生徒数に合わせて学校を再編していくことは必要だと思います。ただ、通学に便利な場所ではないので、安全に時間を掛けずに通学できるような方策を取って頂きたい。
	14	意見を聞いたところで、土地、金、地区、市、県などの障がいがあり、子どもたち第一には考えられないと思う。同じ経費を使うなら、教職員の人材育成に使うべき。
	15	児童・生徒数の減少によって、学校の運営維持ができないのであれば、適正化すべきだと思う。
	16	世界では、少人数制学級が主流になっている今、わざわざ、人数を増やす方向にすることは理解できかねます。説明会で先生方の負担などについてお話がありましたが、玉川地区で指導されている先生たちに、他地区の生徒数の多い学校と比べて、どちらが良い教育環境かを聞いていただきたいです。
	17	人数にこだわり過ぎて統廃合をしてしまうと通学の負担になると思います。また、学校のある地区の住民の方々との交流もとりにくい気がします。また、子どもたちの安全が第一なのであまりにも遠くなってしまうのは不安です。また、少人数だからこそ、先生方の目も良く行き届き、素行の悪い生徒を生み出すことを防げると思います。
	18	子育て世代が安心できる配置を望みます。
	19	通学しにくくなる、家庭や生徒(児童)への負担が増えるのは避けたいので、地域にそれぞれ学校はあるべきだと思う。小・中学校が同じ校舎というのもありかと思う。小学校は人数が少ないからこそ、コロナの時も安心感があつたし、先生方の目が行き届きやすいので、落ちついて学習できる。行事も多く、子どもたちは座学だけではなく、校外学習や地域の方々との交流等、沢山経験させてもらっていて、こういう学校を親たちは望んでいると思う。駅周辺だけでなく、遠くの地域にも若い人たちが住める環境をつくってほしい。人が集中してしまうことが原因ですよね。
	20	小学校はなるべく近く。中学校は多少遠くなくても、ある程度の人数がいた方が良くと思う。
	21	児童・生徒のより良い環境を考えるのであれば、規模人数だけでなく教育内容を第一に考えるべき。ただ運営上仕方ないのであれば、これまでの慣習を排除し、新しい文化を創り上げるべく統廃合を断行するべきである。これまでの策にこだわらなければ、十分に様々な対策は可能と考える。
	22	統廃合は避けられない。遅らせていいことがあるとは思えない。批判は感情論が先にきているのではないのか。

取組の考 え方・進め 方・スケジ ュール (54 件)	23	現状は子どもの数が少なく、少し淋しいです。学校がなくなることは残念ですが、統合によって友達が増えることへの期待の方が親としては大きいです。
	24	毛利台小、玉川中ともに子どもの数が減ってきているので、1、2クラス増えるとしたら、活気が出てよいと思います。ですが、通学が変更になる子どもたちの安全性、利便性等に対する意見やそれに対する具体策も考えた上で検討されるべきと思います。
	25	1学級当たり 40 名クラスだと、先生の目が届いていないと思うことが多々あります。統合により、さらに人数が増え、子どもに目が行き届かなくなり、今より質が下がってしまうのであれば不登校の原因となるので統合に反対です。
	26	生徒数が多い学校と少ない学校の差がありすぎるため、生徒数が多くなる学区を狭く、生徒数の少ない学校の学区を大幅に広げたり、学区にとらわれない学校選択の自由化などの対策を早急にしてほしいと思います。
	27	子どもたちの通学の安全性、豊かな人間関係を築くこと、意義深い教育とすることなど、大切なことを考えてくださり、ありがとうございます。かなりの少子化に備える必要があるとのことですが、スクールバス等(循環バスの路線を利用し、通学しやすい時間を作るなど)を活用するなら、少し学校が遠くになるとしても順応できると思います。(今の時代、通学の安全性に不安を感じています。)小中一体型施設について、Q3 で説明がありましたが、実現すればその計画は経費の削減になると思います。いずれにしましても、子どもたちの将来のために熱心に働いてくださっている皆様に協力させていただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。
	28	安全に通えるようであれば、私は統廃合について気にしません。ただ、今通っている毛利台小学校は人数が多すぎないところが気に入っています。(同学年の全員と仲良くなりやすく、他学年との交流もしやすい。授業参観や運動会もごちゃごちゃしすぎなくて見やすい。PTA も他人事になりにくいのかギスギスしていない。)
	29	生徒数が減少すると多様性に触れる機会、活気、人間関係の刺激が低下するので統合には賛成。通学にはスクールバスの導入などで安全を確保したい。近年、教職員の負担増加が指摘されているが、これについては改善が大事。余裕がなく幸福度が低下しては、教職員も生徒も不幸だと思う。雰囲気の良い環境は大事と考える。多様な人間関係に触れる意味でも、部活動の指導などは地域や民間の人材に任せても良いのではないかと。登下校時のみ制服で校内ではジャージという風習に驚いた。着替えの時間と手間そして購入費用は無駄だと感じた。高額な制服は要らないのではないかと。式典などには各自適した服装をすれば良いと思う。
	30	子どもたちには、たくさんの人と関わりをもってほしいので、統合したり、範囲を広げていくのに賛成します。それに際しての登下校はやはり心配なので、スクールバスの検討や学校まで送迎してもいいのかなと思います。先生たちにとっては、どのようにすれば負担が少なくなるのか、分かりかねます。
	31	長男、長女共に、学区外選択制度で隣接する中学に通わせています。長男は交通機関がなく3キロ強を徒歩、長女は路線バスで通学させています。統廃合して、学校が活発になり、通学方法の討論がされると良いと思います。次男も学区外の長女の学校に通わせたいので、隣接の学区外に行ける制度は維持してほしいです。クラスが減るのは先生の負担が大きくなると思います。統廃合を是非進めていただきたいです。

取組の考え方・進め方・スケジュール (54件)	32	人数が少ない学校は、それはそれでメリットもあると思うが、中学校の部活動などの数も減少しているので、それは子どもにとっては選ぶ選択肢が減ってしまったりして良いことだとは思わない。できれば、いろいろな選択ができ、いろいろな人間関係を作れるのが良いと思います。
	33	多様な人々と関わるのが大切だと思います。玉川中に3人の子どもたちがお世話になり、良かったと思っています。このようなアンケートをしていただきありがとうございます。
	34	少子化が進んできている以上、学校の規模や統合を検討することは重要だと思います。地域を維持し、小規模校として存続していく場合は、よりきめ細かな教育などメリットに目を向けるべきだと思います。小規模校だからこそできることを模索されることを期待します。統合する場合は、これまでの学校の在り方に近い状況が維持できるメリットがある反面、スクールバスや公共交通機関の整備など通学手段の確保は必要なことだと思います。また、校舎を活用していくアイディアも必要だと思います。
	35	豊かな人間関係、多様な考え方に触れられるよう学校はある程度の規模が必要だと思います。そのためには少子化の中、統合も仕方のないことだと思いますが、通学距離など負担が少なくなるよう何か対策は必要だと思います。地域との繋がりは広範囲にはなりますが、それぞれ生徒さんの住む地域との交流を充実していけば良いと思います。
	36	学区外から通いやすいように、通学費を負担し、市内の何方面かに玉川小・中、森の里小・中へのスクールバスの運行を考えれば、学区外から通学する選択肢になるのではないかと。小規模の良い所をいかしてほしい。大規模には無い関わり合いの多い学校を無くさないでいただきたい。
	37	自然豊かな玉川小は、残してもらいたいです。厚木市内を走るスクールバスを運用してもらい、玉川小に子どもたちを呼んでもらいたいです。
	38	地域のコミュニティも重要と思いますが、市立の小・中学校なので、市全体の規模も利用して良いと思う。月曜日は、毛利台小学校、火曜日は、在宅(友達の家)、水曜日は玉川小、木曜日は在宅、金曜日は上荻野小など、実施出来たら楽しそう。地域だけでなく、厚木市、全体の理解も深まると思う。その他、市の施設や、七沢ふれあいセンター(県立施設)とのコラボでも盛り上がられると思う、中学生にはやりたいことを企画・立案してもらえれば、その実現に向けて、トライしてもらおうとか。
	39	基本的には、玉川・森の里地区内の学校を維持してほしい。少子化が進む中でやむを得ず統合される場合、登下校に関して検討は必須(バス、自転車)。但し、共働き世代が多いと思うので、保護者の負担は避けてほしい(金銭面はやむを得ないかもしれない)。地方の様に小・中施設の一体化などもありえると思う(一貫校ということではなく)。
	40	森の里中学校に集約されそうな気配を感じます。個人的には玉川中学校を建て替え、存続できればと思います。小学校は森の里に集約されても位置的に近いので問題は少ないように思います。玉川中学校の開かれたたたずまいを後世に残した方が良く考えます。
	41	南毛利小・中学校は人数多いのにこの周辺では児童数・生徒数が少なすぎる。南毛利小・中学校の人数をもっと減らして周囲の中学校に割りあててください。昔からそうですよね。どういうつもりでしょうか。他の周辺の小・中学校がどうなってもいいの。

取組の考え方・進め方・スケジュール (54件)	42	毛利台小の方が近いと思われる地域の子どもたちが、毎日時間を掛けて南毛利小まで登校している姿を見ます。もう少し学区を変えるべきだと思います。そうすれば中学校の生徒のバランスも良くなるのではないのでしょうか。
	43	玉川中学校は、バスで通学しづらく不便であると思う。再編成や統廃合は学校同士ではなく、市内全域の学校から情報収集し、市が広域的な視点をもって進めてほしい。
	44	南毛利小・中がとても児童・生徒数が多いと思うので、温水地区と合わせて、温水小・中学校をつくることを検討すべき。
	45	両地区に在住、在学がある者です。ひと山挟んだだけの両地区ですが、特性があまりにも違い過ぎる。歴史的背景から、世帯環境、住んでいる方々の考え方。挙げればきりが無い。それぞれ素晴らしいところがある。ただ水と油のように乳化させるのは簡単なことではない。いろいろな方にインタビューし、話は向うが反対意見が多いのが現状。予算を増やして現状維持が理想。合併という選択肢をとるならば、マイクロバスの運行であったり、児童のケアに努めていかないと、児童が減少するにも関わらず、不登校児の増加が免れないかと。
	46	少人数制のクラス編成については学力のことを考えると賛成ですが、学校全体の少人数制は反対です。バスや自転車通学を含め、統合や再編成を期待します。また南毛利小がマンモス校なのに対し、毛利台小が少なく、温水西の同じ地区でも毛利台でなく南毛利に通う人が多いです。旗振りなど地域を含め毛利台に見守りがなく困ります。
	47	現在、長男が小規模特認校制度で玉川小学校に通わせてもらっています。玉川、森の里方面の環境が好きで、学区は南毛利になります。小規模特認校制度を利用しています。玉川小学校と森の里小学校が統合されても、現在4歳、1歳の長女、次男も同じように玉川小学校もしくは、統合後の小学校へ通わせてほしいと思っています。兄弟が小規模特認校制度を利用している場合は、引き続き玉川・森の里方面の学校へ通学できるように配慮をお願いしたいです。またスクールバスも検討して頂けると嬉しいです。どうぞよろしくお願いいたします。
	48	好きな学校に通学できたら良いと思う。上の子が毛利台小から玉川中に通ったが、地域からも遠く、丘の上の立地で、学校行事に参加するのも大変だった。教員不足と部員数確保が出来ない理由で部活動が途中で変更されてかわいそうだった。私は少人数クラスでない方が交友も多様化されて深刻なイジメは少ないと考えます。少人数、小規模が合う子のために環境の良い小規模な学校を残すのはどうですか。選べると良いと思います。玉川が増水したり、橋が危険なら孤立する場所。避難所としても適さないと思っていました。車が立ち往生すればどうにもならないし、子どもや年寄りがあの坂を登り降りするのは難しい。雨の中の登下校で中学生が転んでました。あの場所に中学校を置かなくて良いと思う。バス通学で駅前の中学に通って、部活動して、駅前に沢山ある塾に通える方が便利。駅前の空き店舗も減って、真面目な若者が駅回りを活性化させてくれると期待。
	49	七沢地区在住です。学年により人数が違いますが、テレビで出るような島の学校よりは生徒数が多いですし、左の地図からも玉川中は地域の端なので、森の里中に行かせたい気持ちはあります。
	50	愛甲小通学区域ですが、1つの小学校で2つの中学を選択することが難しいです。親と子どもの意見の相違があり、話し合いに時間を費やしました。できれば1つの小学校で全ての児童が1つの中学にしていただけると助かります(部活動等の問題は除いて)

取組の考え方・進め方・スケジュール (54件)	51	玉川と森の里地区は生徒の通学を考えると統一してしまうのは大変なので。先生たちの仕事などを2つの学校で統一することで、生徒たちに負担なく継続できればと考えます。
	52	毛利台地区に住んでいますが、子どもが中学生になる頃に学区編成で森の里中学にならないか本当に不安です。当然のことながら通学先を頭に入れながら住居を決めていますので、変わってしまっは困ります。また、通学時間が1時間以上と非常に長くなってしまい、子どもに負担が掛かりますし、人の少ない森の里地区を子どもだけで歩かせるのはとても怖いです。今後の児童・生徒数の見込みを考えると玉川中や毛利台小、玉川小に通学するようにしたいと思っています。森の里地区からでは遠いと思うので、スクールバスを検討してください。森の里地区の子どもたちもたくさんの子どもがいる地区で過ごす方が良い影響があると思います。どうしても森の里小・中学校を残すのであれば、森の里の住人を増やす努力をすべきではないでしょうか。玉川中学校の学区の子どもたちは今まで通り、その他の地区の子どもたちはスクールバスで近隣の小・中学校に通うということによりお願い致します。
	53	子どもたちにとって、母校が統廃合でなくなることや校名が変わることは、可哀そうだと思う。
	54	これ以上学校が遠くなった場合、親への負担、子どもへの負担が大きくなる場合があるかもなのでできれば今のままがいい(特に小学校)体力の問題等も
教育環境 (14件)	55	小規模クラスを希望します。統合が進むと通学距離が心配です。
	56	小規模校の特性をいかすことは良いことだが、毎日親の送り迎えが負担にもなる。市内からの通学バスを走らせるなど検討していただければ、市内の子どもが通いたいと思えるのではないかな。
	57	少人数学級でのきめ細かい指導の方が重要。あまり遠くに小学生を通わせたくない。
	58	中学校の案内で、「野球部かバレー部どちらかが廃部になる」「来年度の入部希望者で決定する」「確実にやりたい場合は近隣の中学へ」というアナウンスがありました。これでは野球部・バレー部両方の希望者が他の中学校に流れ、更に生徒数の差が広がるだけだと思いました。どちらかに決定してしまった方がそこまで減らなかったかと思っています。
	59	子どもが通う中学校では、生徒不足、教員不足で昨今、部活動の廃部が続いています。既に魅力のある部活動がほとんどない状態です。再編するならば、教員も充実させ、部活動も活発な学校を目指してください。
	60	中学へ入学する子どもについて、私の周りでは入りたい部活動があるのに、入学する中学ではその部活動が無いという人が多くいます。だから外部のクラブチームを選択するしかありません。何かしらの環境配慮が必要だと感じました。
	61	学区内の中学校に入学するのが基本だと思いますが、入りたい部活動が廃部などでない場合、近隣の中学を考えた時に、生徒本人だけでなく家庭全体で登下校の問題やテストなどで帰宅が早い、天候などで登校が遅くなった場合の親の送迎問題、学校を変えたことにより友達がいらないなど、家庭全体で不安があると思う。生徒数減少や、先生方の部活動の負担、いろいろな問題はありますが、入りたい部活動が学区内にない生徒やご家庭には深刻な問題だと思います。

教育環境 (14 件)	62	小規模化のデメリットはわかるが、そうしなければ成り立たない現実の方が大きいと感じる。教職員の負担の軽減が第一だと思う。子どもの減少は止められないので、そのことに応じた対策は妥当だと思う。
	63	教職員の疲弊は、教育の質の低下を招きかねない。学校運営の円滑な実施に必要な教職員数を確保できるよう、児童・生徒数を調整するという視点もあってよいと思う。先生がいきいきと働ける職場環境を。地域の文化やコミュニティを子どもたちに残す・伝えるという視点も含め、統廃合校の選定をしてほしい。
	64	私等が子どものとき1クラスに 30 名前後の児童がいましたが、現在も同じくらいだと思います。私には教師の目がちゃんと一人一人に行き届いていたとは思えません。毛利台小学校では少ないクラスでは 30 名を下回っていると思いますが、それでも、教員の目が届きにくい場面で児童の授業面でのサポートをしている方たち(アシスタント?)を見かけます。それは素晴らしい取組だと思います。児童の減少もありますが、教員の減少も考慮するべきだと考えています。教員ストレスや負担が軽減され、担任以外の教職員も一人一人の児童に分け隔てなく目が行き届く環境を整えてあげるべきだと思います。
	65	この先、人口が増えるとは思わないので、古くて大きな建物に膨大な修繕費を掛けるよりは、新しく、コンパクトで耐震性に優れ、かつ季節に関係なく快適に学業に励むことができるような建物を一つ作って運営していくほうがよいと思います。
	66	先日、玉川中学校で、野球部廃部の可能性があるとのことについて、意見の場を設けていただいた時に申し上げましたが、いろいろな状況、ご説明を十分理解した上で、思うことは、「法律を変えていただきたい」大きな話になってしまいますが、「何十年前の法律を使っているのだ」と、この多種多様な複雑な教育環境の中、1クラス1名の教員。クラスが減るから部活動が減る。教員の負担、子どもの変化、少子化、全てを解決するには、法律を変えて人数を増やすための声を、国に訴えなければ、どんどんしわ寄せが子どもにきます。少子化は止まりません。もっと豊かな喜びのある教育現場にするために法律を変える声をあげてください。ご丁寧にアンケートありがとうございます。よりよい厚木のために宜しくお願い致します。
	67	小学校については地域コミュニティとの連携は必要だと感じるが、中学校になると必ずしも必要だとは思わない。実際、中学校生活で地域のコミュニティに触れることはなく、不都合もない。
	68	小学校、中学校は毎日登校しなければいけない場所という考えがおかしいと思います。教育は皆平等に与えられるべきものなので、登校できない人にも与えられるべきです。そのためには、登校しても、しなくても同じ教育を受けられる環境を作るべきだと思います。そうすれば学校という建物の必要個数も自ずと決まってくると思います。
通学関係 (12 件)	69	学校を統合することにより、通学が遠くなり、子どもの負担が増えたりすることも考慮してほしい。
	70	結局、市はどうしたいと考えているのかこの説明では分からない。現状ですら学校まで片道 40 分以上も歩いてかなりの負担だ。特に帰りは真っ暗になってからようやく自宅に着くので、保護者としては心配でならない。その上、部活動と勉強を頑張れと言われ子どもが可哀想だと思う。本当にいつ休めばいいのか分からない。学校の近くに住んでいる子と同等の結果を求められ、不公平感が拭えない。適正規模・適正配置に取り組むのであれば、まずはこの現状を改善してからにしてほしい。

通学関係 (12 件)	71	通学時の安全確保(道路整備、立番等)、自転車通学やスクールバス等の検討
	72	子どもの安全確保第一で考えていただきたいです
	73	学校の統廃合によって通学時間が長くなる場合、安全に充分配慮した上で、自転車通学やスクールバスの導入を強く望みます。また、先生方の負担軽減については、学校の統廃合だけでなく、職員数を増やす、重要度の低い仕事をなくしていくなど、人手不足を解消する方向での検討も必要かと思います。
	74	毛利台小は玉川地域に位置していないようですが、玉川中学校の生徒の大部分を毛利台小出身者が占めています。現状、毛利台地域からのバス事情を踏まえた上で、通学等(自転車通学の許可をするなど)、身体的にも経済的にも負担にならないようご配慮いただければと思います。
	75	玉川中が森の里中に合併した場合、当地域からではかなり遠くなってしまうため、自転車通学の許可の検討もしていただきたいです。また、東名中の方が近いため、東名中への通学も選択できるようにすることや東名中を含めた通学区域の再編成もご検討いただきたいです。
	76	少子化により統廃合になった場合スクールバスでの通学を検討してほしい。
	77	スクールバスの運用があれば良いと思う。(保護者の送迎の負担を少なくする)児童・生徒数の少ない学校へ通学する場合は、スクールバスがあれば学区外からでも通学しやすくなる。学校の統廃合により、通学の負担が大きくなった場合。
	78	中学校が遠くなるような編成を検討いただく場合、自転車通学についてもご検討いただきたい。
	79	伊勢原市のように中学校は自転車通学を認めて、学校の統廃合を検討すべき。部活動もある程度人数がいないと維持できないため。小学校は今のまま通学があまり遠くならないように維持する方が保護者としては助かります。
	80	通学路の安全確保またはスクールバスを運行してほしいです。小規模学級だと教員の目が届きやすいですが、特に小学校高学年以降の女子は仲良しグループに入れないと、タイプの違う他のグループに入るのも難しく、浮いてしまう子が増える気がします。小学校高学年、中学校はクラスを固定しない授業があっても良いと思います。
地域づくり・ 地域コミュニ ティ (1件)	81	学校が遠いことで人口減少や増加などの偏りが進んでしまわないように検討した方がよいと思います。
その他 (5件)	82	小中学校の統廃合を検討する上で、そのような事態をもたらす要因にも目を向け、市を挙げて取り組むべきだと切に思います。住宅購入時、当然我が子が将来通学する小・中学校の所在も検討材料の一つでした。マイホームの購入・新築は大抵の人にとっては人生において一大決心です。毛利台に住み始めた直後から、もともと少ないバスの運行数は更に減り、深夜バスの運行は消滅しました。(バス会社はコロナ禍による利用者減を理由としましたが、市が介入して通勤・通学者のフォローをすべきでは?)厚木市が税金を使い補助金を出して 30 代世帯を誘致したその地区は、以前にも増してアクセスが悪く、住みづらい環境となりました。さらに、生徒数が少ないので地区内の小・中学校は廃校しますでは到底納得できません。この本末転倒な事態は各セクションが連携できていない表れだと感じます。目先の対応では最終的に市民にしわ寄せがきます。市内小中学校適正規模統廃合問題の検討を政策としてあげている市長候補者もいますが、そこだけにスポットを当てるのではなく、教育委員会だけの課題にするのではなく、厚木市全体として各セクションが連携を図り、取り組むことを期待します。

その他 (5件)	83	市街化調整区域のため、小さい子どもが減ったのではないかと。市としてもそこを考えてほしいと思う。減らすだけでなく、増やすことも考えてほしい。そうすれば統廃合も避けられるのではないかと。せつかく子どもに優しい市なのにもったいない。
	84	調整区域をなくすべき。玉川地区の土地は余っているのに、調整区域になっているせいで家が建たない。家が建たない限り人は増えない。減る一方。
	85	今回のアンケートには関係ありませんが要望がありますので書かせていただきます。毛利台小学校ですが、この時代で登校班がないのはどうかと思います。1人で行かせたくても、事件や事故を耳にすると不安でいっぱいになります。何故、登校班がないのか理由を知りたいです。場所によっては、ちゃんと登校班があるところもあります。ぜひ検討をしていただけたらと思います。
	86	南毛利小・中学校はマンモス校で、近くの玉川、愛甲、相川地区は生徒数が少ないのはどうかと思います。

② 未就学児の保護者(回答数:28 件)

回答区分	No	回答内容
取組の考え方・進め方・スケジュール (14 件)	1	子どもの通学に負担がない距離に学校がある方が親としても安心。また、学校生活では、教員の負担や保護者の PTA の負担を減らしたいので、なんとかしてください。
	2	統廃合には慎重になるべきだと思う。例えば、いま懸念していることは、将来的に「もともと玉川中へ通学するはずの生徒が統廃合により森の里中へ行かなければならない」など、通学面で大きな不安が残る場合があり、自分の子どもを含め、子どもたちを危険にさらすことも考えられる。安全を考えれば統廃合は難しい。一方で、小規模校に勤務してみると、その仕事量の多さで全てが中途半端になってしまうような負担が先生たちに重くのしかかることも事実なので、教職員の負担減の対策も重要になってくると思う。
	3	人数が少なくなり、クラス替えがなくなることで人間関係があまりうまくいかない際などに、子どもが可哀想。しかし、統合により通学距離が延び、歩く・公共交通などを使うのは反対。スクールバス等の対応が不可能なのであれば統合はしない方が良いと感じます。子どもたちの負担が無いよう考えていくべき。
	4	良い環境の学校を維持してほしい。人数が多ければ良い訳でないことも念頭に置いて、いろいろ考えていければと思います。私の時代も少なかったからこそその良さがありました。
	5	「地域」の範囲を玉川・森の里地区などではなく、もっと広く厚木市として捉えても良いと思う。厚木市という地域の中の学校として、通学にはスクールバスを活用し、児童・生徒数の規模を確保したほうが良い。教職員の数もある程度いないと、結果として子どもたちのより良い学びにつながらない。玉川中学区と森の里中学区を統合して、小中一貫校にしても良いと思う。9年間の長いスパンで子どもや保護者と関わることで、児童・生徒への理解が深まり、より良い教育ができるようになると思う。
	6	子どもたちにとって、人との関わりの中での学びのことを考えると、適切な学校の規模はとても重要であるように思います。特に、思春期の子どもたちにとっては閉鎖的な状況が辛くなることも考えられるため、1クラスよりも2～3クラスある方がやはり望ましいのかと。そのため、スクールバス等の導入により、通学の負担を軽減した上で、統廃合の議論を進めていくことは、おおむね賛成です。
	7	少人数・小規模によるデメリットは合同のクラブ、部活動だったり、複数学校共同の学びの場を増やす、テレワーク等も活用して、先生も児童・生徒も他の学校と連携取れるようにしていくなど、従来の一学校で解決するやり方に固執せずに市全体で取り組むことでデメリットを減らす、むしろメリットに変えていく工夫をしていくべき。
	8	まだ子どもが未就学のため、実際に今通っている児童、生徒、保護者の意見を聞いて参考にしたい。他市の政策や対応についての比較やモデルとなる例を具体的に提示してほしい。
	9	南毛利小学校の学区が広すぎる。小学生が通うには遠すぎるし、毛利台・戸室などの小学校の方が近い子もいる。近くの学区も合わせて学区再編を行うべきだと思う
	10	玉川小学校と玉川中学校を残してください。

取組の考え方・進め方・スケジュール (14件)	11	玉川地域では東側に小・中学校が2校ずつあり、玉川地域の西側には無い、通学等を考えた場合、統廃合は東側に小・中学校を1校ずつ残し、西側にも配置すべき。
	12	玉川小学校の環境と小規模特認校であることを魅力的に感じているので、スクールバスを導入できれば、市内各地から通いたいと思う方々も増えるのではないかと考えます。
	13	更なる少子化を見据えて、玉川森の里地区の中央に統合学校の新設、徒歩20分以上掛かる地域の子どもたちは通学バスで通学。新設校も温暖化による気温上昇や未曾有の災害に備える設備にすることで、より安全な避難場所にもなるようにする。予算から考えると現実的ではありませんが、一つの意見とさせていただきます。
	14	少子化が進み、先生の数にも限界がある。本来の子どもの成長を考えれば、適正配置は必要かと考えています。むしろ民間の力を借り、学校運営を担っていくという考えはないのでしょうか？放課後の問題もあり、民間の学童施設に預ける家庭も多いのであれば、その放課後のサービスから日中の教育の一部も民間企業に担ってもらうなど。フレキシブルな考えがない限り、公だけに任せておくことにも不安を感じています。実際に小学校受験も考えて行動しています。
教育環境 (5件)	15	未就学児の親です。生徒数に関しては、多すぎず少なすぎずで良いです。もし統合するのであれば、思い切って小・中学校をひとつのところに建ててしまえば良いと思います。通学する全員の真ん中くらいの場所に、バスをお願いしたいです。我が家は特に娘なので、小・中学校の送り迎えは自主的にするつもりでした。また、小規模だとPTA活動の負担が大きそうで、親の働きたい気持ちがつぶされます。
	16	平等な教育をお願いしたい。→1学級を20人で考え、教職員負担の軽減と児童全員に目が届く環境づくりをお願いしたい。このアンケートは、質問の段階で、適正規模と書かれています。もう少し、子どもよりの考え方で言葉を選んでほしいです。不安を残すアンケートですね。
	17	地域コミュニティと学校との関係を更に強化して、大規模校とは違った教育環境づくりを目指していったらどうでしょうか。規模ではなく特色ある学校づくりをどうしていくかの視点が重要だと思います。
	18	今後PTA活動に参加出来ない共働き世代が増えることは(保育の必要な親の割合が増えていることからみても)絶対だと考えている。通学負担を減らしてほしいし、学童についても充実させるためのサポート体制の変更は必須である。その辺りを考えて統廃合を行ってほしい。
	19	通学児童数の減少に伴い、学校の統廃合はある意味仕方のないことであるとも思います。しかし、校舎の建てかえ費用、維持について、民間の企業に一定期間学校として機能させることを契約書に求めた上で、誘致することは難しいでしょうか。例えばスイミングスクールなど学校の授業時間外にはスイミングスクールとして経営してもらおう(塾等も然り)ことで、学校としてのコミュニティ機能と財政面での課題を両立することが可能なのではないかと思っています。
通学関係 (9件)	20	通学の距離が増えると、通学時に事件や事故が増えてしまわないかが心配です。通学路の安全性は確認してもらいたいと思いました。
	21	子どもたちの登下校の安全を確保できるよう、一定距離以上(1km程)離れている子どもに対してはバスを導入するなどを検討いただきたい。

通学関係 (9件)	22	児童・生徒の安全を守ってほしい(バスなど)。保護者の負担を減らす(給食費、交通費の無償化)。クラス替えができるように一学年を2クラス編制にすること
	23	児童・生徒の負担にならないように、通学距離を考えてほしいと思います。
	24	統廃合を含む適正配置の流れは避けることができないと思いますが、徒歩や自転車での通学にこだわらず、スクールバスの整備を含めて、通学の負担軽減、安全の確保を最優先にしていきたい。校舎の維持や修繕に比べれば、バス・運転手の確保、維持はそれほど費用の負担はないと考えます。
	25	中学生は学校が遠くなっても、バスや自転車通学が可能だと思うけど、小学生、特に低学年は遠くなると通学が大変になりかわいそうだと思う。その辺のことを配慮して(事故等も)いただきたいです。
	26	子どもにとっての通学の負荷が大きくなりすぎないようにご検討をお願いいたします
	27	一番心配していることは、学校が遠くなった場合の送迎です。共働きなので、放課後は学童に通わせることになると思います。通学バスなど出してもらえると、とても助かります。
	28	小学校の統合については特に、通学路、通学時間を考慮する必要性が高いと思います。低学年ほど、身体的に未熟な部分も多く、長時間の通学が負担になり、その後1日の学校生活に影響を及ぼさないような配慮が必要ではないでしょうか。また、クラス数が少ない、生徒数が少ないことが理由で、部活動の選択肢が減るのは、学校によって差が起こるべきではないと思います。子どもたちが、本当にやりたいことを諦めずにできる、部活動に限らずに大事なことからと思います。

※区分「地域づくり・地域コミュニティ」、「その他」は該当なし

③ 地区住民(回答数:117 件)

回答区分	No	回答内容
取組の考え方・進め方・スケジュール (48 件)	1	学校を維持できないと、更に子どもの減少につながると思う。また、学校までの距離が遠くなるほど、親の負担が増える。
	2	コストの面で考えると学校を維持するための費用や、教職員などを減らしたりできることのメリットはあると思う。地域の運動会や災害があった時の避難場所としては、学校はとても重要な役割を果たすと思う。自分の通っていた学校がなくなってしまうのは悲しいなと思いました。
	3	学校施設の維持管理、いわゆる「ハード面」では再考慮の必要性ありか。一方で教育面での資質向上で、「民間教育機関」の民間力などの導入を検討することにより、柔軟な構造改革の端緒になるかも。(案)として。
	4	子どもたちのことを第一に考えて対策を取るべきだと思います。
	5	少子化が進んでいる現在、子どもたちが過ごしやすい環境づくりは大前提ですが、それを支える先生方や地域の人たちとの連携のために、統合して運営することも1つの手段だと思います。決定したことに従ってまいりますので、よろしくお願いします。
	6	玉川地区と森の里地区では、育ってきた環境、生活も全く違っている。子どもも大人も考え方が違っているので特に小さな子どもは別々の方が生活しやすいのでは。
	7	中学生はともかく、小学生においては、あまり通学距離が遠いのは安全面(交通事故や防犯等)で不安があると思います。ただ、あまりに学級の人数が少なく、狭いコミュニティでは多様性を学ぶことが難しく、いじめの発展にもつながる可能性も高まると感じます。ある程度の学級の人数を確保し、安全を守るためには、通学用バス etc も必要ではないかと考えます。
	8	少人数で子どもたちを見てもらえる良さがあるので、あまりに多すぎるのは、望みませんが、今現状では、1 クラスの人数が少なすぎるのかなと思います。森の里と合わせるくらいがちょうど良さそうです。人数が少なすぎてできる行事が減ったり、もの足りなくなったりすると、子どもたちがかわいそうです。対策を取って頂けると有難いです。
	9	登下校に要する時間を考えると、あまり遠くに通学するのは親子共に大変だと思うので、できるなら各地域内に学校が維持された方が良く思うのですが、具体的な案が思い浮かびません。又、中学生に対して自転車通学を認めるということに対して反対ではないが、ルールやマナー、交通事故等のことを考えるとやはり不安は大きいです。教職員の多忙化に対して人数不足が一番の問題だと思いますが、人件費等の面からも容易に増員が出来ないと思うので、やはり地域ボランティアや他の人材の更なる活用で解決することは難しいのでしょうか。
	10	学校の歴史や地域性を踏まえて、今後どうするのが良いのか検討する必要があると思います。
	11	玉川小学校今年の1年生は11人。個人的には目も行き届いて悪くないと思っています。ただ、今後2校合わせて1クラス分(20 名程度)の人数になってしまうような場合は統合・合併をした方が良く思います。少人数は親や教員の負担も多くなりますし、子どもたちも友達が少なくなります。もちろん、通学するにあたり遠くなったりする不便があります。少人数を無理に多数の学区で分けることの方が無駄と感じてしまいます。

取組の考え方・進め方・スケジュール (48件)	12	大人の都合による線引きでの決定だけは避けていただきたい。未来へつなぐより良い取組となりますように。
	13	財政の問題で統廃合は考えないでほしい。子どもが教育を受ける権利を重視し、市の中心部に住む子も、周辺地域に住む子も同様な利便性の中で教育が受けられるように市政の力を発揮するべきだ。近所に学校がなければ、通学距離が長く、安全性の問題がある。スクールバスを導入し、中心部の地域から通学できるようにして生徒数を維持するなどとは考えられないのだろうか。地域の高齢者にとっては自らの母校が廃校となることは生きる上で喪失感につながると思う。地域の力を維持する上で地域に学校を残すことは重要です。
	14	市制以降、市街化調整区域のままでは人口は減るだけ隣に大規模団地を開発したが、今では統合対象となる。一時の発案で推進せず、もっと時間を掛けることが必要。アクスト厚木の失敗を忘れないでほしい。
	15	小学生のうちは地区ごとに学校があった方が親も子も安心かなと思いますが、中学生では地域ごとの配置となったとしても、生徒自身も環境に馴染める年齢だと思うし、人数がある程度いる方が、部活動の選択肢が広がると思います。我が子も小規模校で過ごし小規模校なりの良さを実感している反面、狭い人間関係でのデメリットがあることも認識していますので、最終的にはこれから通う子どもたちや保護者の皆さんが、楽しく学校生活を過ごせる環境づくりが大事だと思います。また、公民館が地区ごとにあることを考えると、本来は学校も地区ごとにある方がコミュニティは形成しやすいように感じます。
	16	人口減少地域の子育て世代定住施策の実施の遅れ(平成30年度実施?)、支援内容にインパクトがない中、当該地域の小・中学校の統廃合は、当該定住施策の後退を招き、更なる当該地域の高齢化を加速させる。財政の効率化等よりも、子どもたちの生活面に重きを置いて検討していただきたい
	17	時代の流れと共に変化することは仕方のないこと。メリットを最大に活用することが大切。
	18	大変、重いテーマですが私共も無視していく訳にはいけないテーマです。根気よく、意見を聴き、前進するしか有りません。
	19	子どもたちの教育環境を整えることは、教育を考える中で一番の重要事項。そのために、慎重に話し合いを重ねることを希望。子どもたちと教職員を守ることをお願いしたい。
	20	今の段階で実施するアンケートも意義があると思うが、ある程度方向性が出た段階で、具体的にどの様な要望があるのか把握して、検討するようにしてほしい。
	21	①適正規模、適正配置は学校教育に関する重要な要件であると思います。その中で多様な考え方があり、一定の方針をまとめることは難しい作業だと思います。②このようにアンケート等広く市民の声を把握することは必要だと思います。③学校で学ぶ児童・生徒がこの課題の主役だと思います。やさしい設問で児童・生徒の声を把握したらいかがでしょうか。
	22	学校教育は地域の発展に不可欠。行政が将来この地域をどうしたいのかをアンケート調査に入れるべき。

取組の考え方・進め方・スケジュール (48件)	23	人数で適正配置を検討するのは分かりますが、その学校を維持するよう前向きな検討を今までどのように行ってきたのか知りたい。保護者や地域の方の多くは維持を望むはずであり、廃校とするのは反対が多いはずである。私自身も子どもを今より遠くの学校へ通わせることの不安が非常に強い。それならば現状の学校で複学年学級での措置などを考えてほしい。母校が残るよう願う親がいることも分かってほしい。通わせるとなったときの具体的な案(バス通学)などを前もって親に分かるようにしっかりと説明してほしい。森の里地区の人数の減少が見られるのならば、玉川地区の学校を残して教育をするのが道理だと思う。校舎はどちらも古く、差はない。
	24	玉川地域に、玉川地区と森の里地区があること自体理解できない。玉川と森の里では、歴史も違い文化も違う。平面図に星印がついているが、山の尾根で、閉ざされている。玉川中と言うけれど、歴史ある玉川中は、すでに廃校となって久しい。児童数は減っているが、玉川小は現状が望ましい。地域に根差した特色ある学校づくりが推進されており、このような、小学校(特認校)が、厚木市内にあってよい。
	25	玉川地区・森の里地区とありますが古き玉川は絶対に残すべき。
	26	玉川小学校・中学校の名前は残してほしい。
	27	中学校に関しては統廃合賛成であるが、小学校はこのまま維持希望です。児童が、歩いて通える距離に小学校があり、近隣地域の人との交流があるのが理想だと思います(コロナで交流はなくなっていました)。玉川小学校は、小規模特認校、少人数であることを売りにしていて、それはよい考えだなと思っていました。しかし実際はそれほどみなさんには、その効果を期待されていなかったということでしょうか？
	28	これからの子育て世代は玉川小学校が無くなると困る。通える小学校が無ければ引越すしかない。
	29	児童・生徒数が減ったとしても玉川地区には長い間地域との関わりもあり、地域に密着してきた歴史があるため、是非維持してほしいと思います。又、森の里は確かに近くにはありますが、人があまり通らない、車が非常に多く通るため、いろいろな意味で子どもに危険だと考えられます。
	30	玉川地区は古くから地域との連携・協力体制が整い、幅広い年齢層が学校を通じて関わり合うことでこの地区の歴史や文化に児童が触れ合うことができ、また、地域全体で児童を見守り育む文化が根強いと常々感じております。森の里地区に在住し、子どもを在学させた経験もありますが、それぞれがそれぞれに素晴らしい取組がある。ただ世帯環境を含め異なる部分が大き過ぎるようにも感じております。合併せずに維持できるのが理想。そうでなければ、十分準備が必要。懸念事項を丁寧に検討していったほしい。
	31	玉川小学校は歴史のある小学校です。環境もとても良い場所であり。統廃合すべきではなく玉川小学校は残すべきです。
	32	①玉川小学校と森の里小学校を統合した場合、小学校の低学年はどちらの地域になるか解りませんが通うのにどうかと思います。②むしろ小学校と中学校を昔のように一緒の場所にしたらどうかと思います。③小中一貫校ではどうでしょう
	33	玉川、森の里にそれぞれ小学校・中学校は残してほしい。玉川小のように人数の少ない子どもたちを中学校で2つに分けないでほしい。

取組の考え方・進め方・スケジュール (48件)	34	玉川小学校・玉川中学校は残すべき(維持すべき)と考えます。地区代表として玉川地区の学校という面もありますが、創立130周年という歴史ある学校だからです。また、適正規模という考えに疑問を感じます。適正というのは個人により違うからです。個人・個性が大切にされる現代社会だからこそ、小規模学級がより子どもの感性を豊かにしてくれると思います。
	35	玉川地区は歴史ある小中学校であり、今まで通り維持してほしい。人口が増えないのは調整区域のため住宅が増えないのが原因である。
	36	35年前から各学年一クラスは続いている、子どもは、幼稚園で他地区との交流もあるから、今更統合するのは、どうかと思います。少ないながら、地域の方の見守り、作物づくりの手伝いなどある。児童数が多ければいいとは思わない。大きい学校だけが教育ではない、小・中学校で統合するのもいいと思う。
	37	それぞれの中間地点など場所を考慮した統合を考える。
	38	玉川小・中学校は古い歴史のある学校であり、三世代で通学している。春の玉川沿いの桜は厚木でも見所としているのに、そこが維持されないのは考えられない。過去には森の里と合同で運動会、球技大会など行なったこともあるので、通学バス等を走らせ、歴史ある小・中学校を消さないでください。
	39	森の里地区の小・中学校は森の里地区の開発に伴い人口が増えたことで開校された。今日の森の里地区の高齢化、人口減少を考えると、今後も児童数の減少は止まらない。一方で玉川地区は少子化の波を受けて児童数は減るが代々続く家も多いため、極端に推移しづらい地区であり、玉川小学校は明治の開校で歴史がある。本来は国として、子どもの教育施設は各コミュニティに根ざした形で優先的に存在させるべきであると考えるが、この玉川地域の小学校という点で、どうしても経済的もしくは効率的に統廃合を考える場合は、ぜひ玉川小学校で地域の歴史や文化を学んでほしい。なお、本アンケートについて、地域の声を聞いてもらえることは重要で必要であるとは考えるが、事実のみの参考資料を添付することのみ必要で方向性であるとか、案であるとかの資料はアンケートの回答を誘導するなど、作為的なものを感じる。公平性に欠ける。
	40	森の里地区は玉川地区だけではなく、上古沢なども含まれていたと思われます。実際に学校が建っている場所が旧玉川地区だとして、森の里地区を作った訳ですから、それを「旧玉川地区に2つの小学校と中学校の計4校がある」として話を進めること自体に問題があると考えます。玉川中学校には毛利台や愛名の人も通っている訳ですが、そちらが地図から省かれています。その時点で正しい判断をするために行われているアンケートであるとは思えませんが。森の里に統合された場合、小・中学生たちが自転車で通う高校生たち等と通学路で一緒になった場合、高校生たちも含めて交通の安全性に問題は無いのか。また、毛利台や愛名に住んでいる人たちも含めて、通学路の安全性は確保されるのでしょうか。玉川に統合された場合、森の里からの通学路の安全性に問題はないのか。安全性も問題ですが、中学は七沢からだ距離が遠いです。自転車を利用するにしても、小学生の通学と一緒にした時に、中学生の安全性も含めて問題はなさそうでしょうか。数字だけではなく、そういうところまで含めてご検討をお願いします。
	41	今後の児童・生徒の減少を見ると、小学校は玉川、森の里それぞれ維持し、中学校は統合という形が良いかと思う。自分自身玉川小学校では学年30名以下の小さなコミュニティで過ごしたが、玉川中学に進学し学年80名以上になり良い刺激だった。中学生であれば、ある程度の遠距離通学も可能かと思う。

取組の考え方・進め方・スケジュール (48件)	42	何かの特区を作って外部からの子どもたちを受け入れる。
	43	森の里地区と玉川地区はトンネルや坂などで離れているため、適正規模・配置にする際には、児童・生徒の通学のしやすさや安全面への配慮を十分にしてほしい。小学校は各地区に1校ずつ存続させてほしい(通学距離や安全面から)。中学校はある程度の規模が望ましいので、地域内に1校でも良いと思います。もし地域内に1校とするのであれば、昔からある玉川小と玉川中を残してほしい。「玉川」の地名は、平安時代の資料にも登場すると(厚木市内に残っている地名は玉川だけとのこと)聴きました。そうした面の考慮もしていただきたい。
	44	うちの子どもが玉川小学校に通っていたのですが、勉強以外で田植えや、せんみ凧づくりなど特色のある学校教育がされていました。森の里小学校ではどうだったのかはわかりませんが、もし統合されても、そのような伝統的な教育は維持していくことを前提として考えてほしいです。
	45	統合してしまったら、通学距離がさらに長くなり、共働き世帯などは朝早く送り出し負担になる。今後、児童数が増えても元には戻らない。合理化することは良いことだと思うが、学校教育は違う。
	46	あまり遠いと朝起きるのが早く、寝不足になりがち。親への負担増。
	47	通学距離、時間等を考え親に負担が掛からないようにしてほしい。
	48	住み良い厚木などがメディアで報道されていますが、子どもの教育は大変重要と考えます。学校は、通学距離が適正であるべきです。これを基本に対象地区、学級数を考慮しながら適正規模を割り出すことが必要と考えます。従って学校区での規模の枠では無く、全体で見直すことが必要と考えます。
教育環境 (8件)	49	適正規模を念頭においた検討だけでなく、小中一貫教育の推進、障がい児インクルーシブ教育の推進など、様々な観点を考慮に入れて今後の学校の在り方を検討すべきだと思います。
	50	学校の統廃合は避けられないことだと思う。まず小・中学校の統合をしたらどうか。その際には子どもたちが安全安心に通えるよう公共交通機関の利用を認めたり、スクールバスの運用を検討するべき。
	51	今後、玉川地区の児童数の減少は続くものと思われますので、小中一貫校にすることを考えてほしいと思います。
	52	少人数であったからこそ学年全員の名前や顔を知っていたり、仲良く過ごしていた学生生活であったので、少人数でも持続できるのであればしてほしい。
	53	①小規模校のメリットを最優先に考え維持すべき。②スクールバス等を運行して児童・生徒数の分散化を図る。③登下校時の変質者出現をきっかけに子ども見守り活動を長年続けています。統廃合で通学路が長くなるとリスクが高まります。④子育てに優しい市を目指して子育て・教育予算を2倍、3倍に増やす覚悟で。⑤元気な高齢者を甘やかさず、いろいろな事業に活用させてください。
	54	学校として存続させた上で、公共施設内の学校という位置付けで、複合型スペースとして捉えるのが良いと思います。高齢化が更に進んでいくので老人が集う施設にするのも検討してほしいです。

教育環境 (8件)	55	いつの時代も小・中学校が担ってきた役割は膨大であり、地域の歴史や文化のみならず、市民の拠り所である。行政では箱物の建て替えは建設のみならず、その維持管理における費用対効果がどれだけあるかと算盤を弾いていると考える。文部科学省が進める学校運営協議会、地域学校協働活動の視点からも保護者も地域もウインウインの関係により活性化が図られると考える。児童・生徒の教育のみならず、社会教育や地域福祉、乳幼児の受け入れの視点においても、公共施設の有効利用が図られると考える。学校施設のバリアフリー化を含め、更なる施設への工夫が必要となるが、教育委員会のみならず、市長部局と連携して、これからの公共施設の在り方、最適化が図られると信じている。清川村でも幼小中一貫の構想もあり、厚木市においてできないわけでもない。玉川の人数において、競争や協働における教育課程や学校経営の工夫、教育費の保護者負担の増大のみならず、いじめや学級カースト、学力の保障において、教職員の指導力、働き方への負担などの課題もある。先にも述べた地域の教育力を高めるため、市費の非常勤の雇用を市民に広げ、学校の維持管理、指導の補助、地域が支える学校は可能である。
	56	学校の適正規模の判断が、児童・生徒の立場に立ったものでなく、市政、特に予算との関わりで論じられているように思えます。教員 32 年の経験から、きめ細やかな指導や子ども同士の関わりの深さの点で適正というなら、20 名程度は少ないとは言えないと思います。ヨーロッパや北欧では、少人数で密度の濃い指導体制がとられています。地域に根差した学校の存在をもっともっと大切に、子どもに寄り添ってほしいと願っています。未来を担う子どもたちの学校、生活環境に最大限の手厚い政策、お金を使っていたきたい。アンケートの結果、分析、考察等をどのような形で知ることができますか。ぜひ、広報誌等でお知らせくださいますようお願いいたします。
通学関係 (29 件)	57	通学が遠くなるのは問題。将来スクールバス等の検討が必要か(外国では実施されているのでは)
	58	中学生は森の里中から玉川中まで行くことはできるだろうが、小学生がどちらかの小学校へ通うのを考えると、山を一つ越えるのは親の送迎が必要になると考えられ、仕事をしている親には負担になる。これから自分が結婚し、子どもを通わすことを考えると玉川地区に住むのを考えてしまう。
	59	小学生の徒歩2km 以内を可能な限り維持してほしい。親が送り迎えは厳しい。
	60	玉川地域は範囲が広く、今でも子どもたちは学校に行くのに 30 分以上歩いています。夏などは熱中症も心配です。今のまま残していただきたい。子どもが少なくなったら、少人数学級を増やすとか学童保育の充実など使う方法はいくらでもあると思います。
	61	玉川地域は居住区域が広範囲のため特に児童の安全通学及び通学距離の検討が重要と思います。
	62	学校運営にあたって人件費、設備費などの経費が掛かることは理解しています。しかし、小さな子どもが数 km 掛けて通学するのは難しい。若い世代の移住者、定住者の減少にもなる。小1の子が3km×2を歩けますか。
	63	小学1年生が徒歩で通える範囲であってほしいと思います。玉川と森の里の文化についても個性を尊重されるべきではないでしょうか。
	64	維持される小・中学校(残る小・中学校)の場所によっては、通学経路、通学時間、通学方法等が課題となる児童・生徒がでてくると考えられる。
	65	通学距離があまり長くないことを望みます。

通学関係 (29 件)	66	実際に通学する生徒の登校距離や所要時間なども考慮すべきだと思います。
	67	森の里小、玉川小の統合時においては登下校の道中で七沢隧道を通ることとなり、人通りも少なく犯罪防止、事故防止には最善の策を講じる必要がある。地域内から学校がなくなることは増々の子どもの減少となりかねないので、本来であれば学校を維持する方向で検討いただきたい所です。子どもの減少については以前より長い間、問題視されていたことであり、今でも減少が続いている状況は行政の失敗であると言わざるを得ない。厚木市においても子どもは将来の資産であると位置付け、先行投資する意味でも安心して子どもを産み、育てることができる、あらゆる環境づくりに今以上に力を入れ取り組んでほしい。
	68	通学にスクールバスなどを用い、登下校の安全を確保できれば、地区に学校の維持をする必要はないと思う
	69	子どもたちの通学に対しての距離、安全を考えてほしい。みんながみんな親の車などで送迎ができるわけではないので。
	70	小学校の場合、児童の安全(通学)を第一に考えるべきだと思います。中学校の場合は、統合も可能。
	71	小学校は地区に一つないと、通学面で遠くなりすぎてしまうのではないかと思います。まだ小さい体で通うのは心配です。(特に冬の帰宅は暗いので)また、高齢者も多い地区だからこそ防災の面でも小学校を残すことが必要だと思います。中学校は、ある程度身体もしっかりしてきているので、通学面などの心配はあまりないですし、部活動面など考えても統廃合は仕方ないと思います。
	72	中学生ならばある程度の距離であっても通学は可能でしょうが、小学生はまだまだ不安が残る。保護者の送り迎え等も限度があるでしょうし、やはり地域内に学校があることが望ましいと考えます。
	73	小学校への通学を考えると低学年の体力や防犯面から学校を維持すべきだと思います。
	74	通学路の整備をすべきだと考えます。
	75	七沢→森の里中への登下校は、山で暗く、怖かった。もし玉川中に通うとしたら、遠いので自転車通学なのかもしれないが、自転車だとしても、道がよくない。(農道か歩道なしの道)スクールバスなどが必要かもしれないと思う。
	76	玉川小もしくは森の里小に統合になったとして、それぞれ子どもたちの通学路になる歩道はきちんと整備してもらいたい
	77	小学校の統廃合は、治安・交通手段等の対策を第1優先で検討願います。
	78	少子化は止まらないので、学校の統廃合は必然だと思いますが、子どもたちのスクールバス等の考慮を忘れないでほしいです。
	79	統廃合等において既存施設を活用する場合、通学距離が遠くなる学生(中学生)については、自転車通学等も考慮していただきたい。
	80	学校が減ると、送迎等が大変になるので、徒歩以外の方法も考えてあげてほしい。七沢から森の里中学校への通学は自分もキツかった。
	81	小規模な学校のデメリットから考えると、適正規模にして、通学の手段を児童はマイクロバス、生徒は自転車の利用にするのが良いと思います。
	82	玉川地区、森の里地区で小学校1校、中学校1校でいいと思うが、通学手段の検討が必要かと思う。
	83	通学路の距離がありすぎる場所に住んでいる子どもたち用にスクールバスを朝、夕何回か走らせてもらえたら良いと思います。子どもの送り迎えができる親ばかりではないので。

通学関係 (29 件)	84	通学に時間が掛かり過ぎる場合(40 分以上くらい)は通学方法の改善案が必要だと思われます(バス通学や自転車通学など)。人間関係構築において、ある程度の大人数の中で社会性を勉強させたい。
	85	学区が広範囲かつ地形的に複雑なため、今ある校舎への統合は、通いづらくなる子が出てくるのが心配である。統廃合するならスクールバスを出すなどして、どの子にも通いやすい配慮をしてほしい。
地域づくり・ 地域コミュニ ティ (11 件)	86	小・中学校の国の適正基準を参考とされているようですが、厚木市行政で、調整区域の見直しをしてこなかったことも生徒数減少の一因であると思います。調整区域内の人口減少は今回に限らず今後も課題であると思います。昭和 50 年代の玉川中学校移転の時も今回同様の論議がありました。結果旧玉川村の学区が分断され種々影響が出てまいりました。適正規模・配置を基準とするよりも、いかに世帯数を増やすか、良い環境づくりをするべきだと考えます。玉川小学校ほど風光緑水に恵まれ、公道より約 100m 離れ静かな教育環境は、他に無いと思われる好立地と考えます。
	87	地区内にそれぞれ学校を維持すべきだと強く思っております。地域に小・中学校がなくなればそこに新たに住もうと思う人もなくなり、若い移住者が減り、元々住んでいる人も他へ行ってしまつて過疎化が進んでしまうと思います。世帯は別ですが、小規模特認校制度で甥が玉川小学校に通っています。他の地域からでも希望すれば通える、そういう制度があることはとても良いことと思っていますので、これから児童・生徒が減っていく恐れのある他の学校でもそういう制度を広く活用していけばよいのではないかと思います。小規模の学校を維持していくのはいろいろ大変なことも多いと思いますが、小規模のよいところを活用して、地域のためにも末長く維持していただきたいです。よろしくお願いいたします。
	88	地域活動で学校がどれだけ使用されているか分かりませんが(あまり活用されているように感じません)、障がいや高齢福祉の複合施設の機能があっても良いのではないかと思います。縦割り行政の無駄の削減にもつながるのではないのでしょうか。
	89	玉川地区から小学校が無くなる場合、地域の歴史や心の寄り所が無くなることだと思います。児童・生徒の減少は大きな課題ではありますが、住民の意見や想いを十分に汲み取っていただいて、取り組んでほしいと思います。「小中一体型施設」は良い方法かと思います。
	90	統廃合後、森の里小と玉川中が残るという話を聞いています。玉川に小学校が無くなった場合、避難場所が減ります。森の里小へはトンネルが崩れて行けなくなるでしょう。今も玉川小を避難場所の一部としていることが疑問です。(車は橋 2 本の交通手段しかありません。橋は崩れるでしょう)橋を渡らない県道沿いの玉川公民館周辺をもっと活用できないかと思います。又、このアンケートの意味が分かりません。問 8 に関しては、特に誘導されているように思いました。
	91	玉川地区、森の里地区は住民の文化が違いすぎるので、統合は難しい、通学するにしても距離がありすぎる。
	92	地域のコミュニティづくりの場として学校の校庭を自由に出入りできるように要望したい。なお、現在は防犯のためか施錠されているので入ることもできずコミュニティどころではありません。一般の人は入れない雰囲気です。
	93	学校を統合しても、グラウンドは残して、行事や祭りやスポーツのために活用してほしい。

地域づくり・地域コミュニティ (11 件)	94	小・中学校(玉川、森の里地区)1校を残して、他に行くのであれば、スクールバスを出すのか。防災の拠点はどうするのか、統合した後、その場所になにか地区のためになるものになるのか、はっきりしてほしいです。
	95	統合後の旧校舎の活用は、教室ごとに多目的で有効的な活用を望みます。
	96	適正化に伴い廃校する学校がある場合にその土地、建物を有効に活用できるようなプランづくりをしていただきたいです。
その他 (21 件)	97	厚木市は、現在子育て世代に対しては手厚いと感じていて今回のこの市立の小・中学校の取組だけでなく、赤ちゃんからお年寄までの全世代みんなが公平に暮らすことのできる厚木市であってほしい。厚木市になってほしいと思います。いろいろな市政について難しいと思いますが、全世代に公平になるように進めてほしいと強く思います。
	98	調整区域であり、新しい住民が増えません。子どもが少なく、残念です。
	99	①市政の基本は地域を守り発展させることである。②減少する地域人口減少は何が問題であるのか再考願いたい。(住居の増加を極端に規制しているのは行政ではないか)
	100	若い人たちは町の生活をもとめて地区を出ていってしまっって帰りません。地域を住み良くしなければ離れるばかりです。
	101	学校の統廃合も含めた学校規模適正化の方策は参考資料で理解できるが、厚木市の人口増となりうる策ももう一度考えるのもひとつではないか。
	102	市街化調整を検討すべき。遅すぎる。
	103	過疎化少子化がこれからもますます進行するとの予想がありますが、統廃合ありきではない方法で地域の活性化を図る方策を考え、住みよい地域の未来を創造すべきと考えます。
	104	まずは魅力のある街にし、店や企業の誘致を行わなければ、人口の減少は避けられないと思います。住みやすい街→人口増→子ども増。
	105	小野や七沢の農地に住宅が建てられるようにしてもらいたい。農地が狭い地域の上、動物の被害も多いため、農家が減少しているので農地は減らしてもいいと思う。農地が住宅になれば子どもも増えます。
	106	建築しにくい土地政策を変更し、新しい家族が入りやすくしていくべきです。子どもの減少はともかく、通学できない子どもたちには少しだけ希望の持てる、とても良い環境なのではないかと思っています。
	107	日本全体で少子化であるため、玉川地区・森の里地区が特別な訳ではない。地域活性化の取組が先決で、これ以上学校の通学も遠くなる条件ならば、あえて、住もうとは思わないだろう。庁舎、駅の周りばかりマンション等が建てられ、子どもも増えるため、周辺の学校はあふれる。庁舎、駅から離れた地域の開発をしないままでは、減少するのも当たり前。小さい学校は、とても経験豊かなものがある。決して社会が小さい訳ではない。自転車通学や、スクールバスなどの方策も挙げられていたが、道の整備や、安全面が疑われる。公立学校離れも考えなければいけなくなる。
	108	昔から学校があつたのでそこには、いつでもありつづけてほしいと思います。調整区域で家が建てられないので、人が増えません。あとはお任せいたします。よろしくお願い致します。
	109	玉川地区の土地の調整区域を解除すれば住民(子ども)が増えると思います。

その他 (21 件)	110	この地域は調整区域、建設物の制限があり、人口が増加する見込みがない。地域が活性化するように市は考えてほしい。環境が悪い(不審者、動物)、交通手段もないまま、子どもが長距離登下校するのは危険を伴うと思います。
	111	統廃合にあたり、地域を考慮する必要はない。玉川地区は、市街化調整区域であるため、人口の増加は望めないし、地域の中核が必ずしも学校であるとは思わない。市立学校は、通学する児童・生徒のためだけにあるわけではない。公共施設として、災害等やコミュニティ活動のためにも必要である。学校の複合施設化なども検討してほしい。小学校の隣に公民館は必要なのか。学校に併設、もしくは公民館も統廃合しても良いのでは？小・中学校の適正配置だけでなく、公共施設全体の再編、統廃合などの検討を望む。
	112	出生数が過去最低の落込みです。このままいったら国の滅亡になりかねません。子ども手当の増額支給を言っていますが、もっと根本的な問題を忘れているのではないのでしょうか。結婚しない若者が多くなっていたりしているのは、どんな不安を抱えていて、それが何かといった検証がなされないと根本的な解決に至らないと思います。教職員の負担の大きさが言われますが、元気な老人が増えていきます。その活用を考えても良いのではと思います。もっと地域に頼って良いのでは。声に出していただくと参加しやすいと思っています。
	113	現在の小・中学校は教育の場となっているが、私の子どもの頃の学校は、教育の場より、地域(となり同士)の遊び、学びの場であり、自然と子どもたちが集まる場所であった。今後もそのような場所であることが理想であると思う。
	114	歴史ある母校、玉川小学校を無くさないで欲しい！
	115	玉川小学校は歴史があり古墳など出ていることからできるものであれば維持していただきたい
	116	七沢希望の丘学校では子どもたちで学習と課題を見つけさせ主体的に解決に向かう力を養うという多彩なことを行ってすばらしい。公立学校の方が経費や先生も多く更にきめ細かく運営や行事ができるはずなのだが。
	117	地区の住民として、学校のグラウンド等を使用することが多いので必要だと思う。130 年あまり続いた学校は残してほしいと思う。

3. 自由記述欄

(1) 設問(2)で「適切」「おおむね適切」と回答した理由について [その他選択理由]

① 児童の保護者(回答数:12 件)

No	回答内容
1	生徒の校区ごとの対立の緩和
2	クラス数がある程度ないと、教員数も減るため部活動等に支障が出る
3	私は別の市の学区で6クラスあり、クラス替えも楽しかったですし、問題は感じませんでした。学級の数の問題ではないと思いますが、多い方が PTA 活動は楽だと思えますし、気の合う仲間も多いのではないかと思います。縦割りは向き不向きがあると思いますので、やり方を考えてほしいです。玉小はいい子が多いと感じています
4	子どもの友達、お名前、お顔、一致できる範囲である
5	選択肢 1～12 は、理想の回答にすぎません
6	人数が少ないのなら仕方がない
7	たとえ、1 クラスの人数が少なくても最低3クラスあれば、友達同士のトラブルなどがあっても対応できる
8	小人数でじっくりした人間関係を築ける
9	「小規模な学校」の方が、多くの大人たち(教員・保護者、地域住民以外も含めて)が児童・生徒に関わることが増やせると思う
10	自身の小・中学校が当該適正規模の範囲内であったためそれが当たり前だと思った
11	小学校では 1 学年3クラス、中学校では 1 学年4クラスはあった方が先生方の負担も少なく、子供たちも多くの友人ができ、部活動の選択の幅が広がるのではないのでしょうか
12	教員の負担を踏まえ、1クラスにつき児童 30 名未満が望ましいと思われる

② 未就学児の保護者(回答数:1 件)

No	回答内容
1	適切と言うより、子供の数が減っていく中で自然の流れだと思う

(2) 設問(2)で「あまり適切ではない」「適切ではない」と回答した理由について [その他選択理由]

① 児童の保護者(回答数:5 件)

No	回答内容
1	設問の立て方が恣意的
2	学級数や生徒数も大切ですが、昨今言われている教員の仕事量の多さや先生の資質などが大切だと思います
3	少子化の現在、学級数が少ない学校があっても良い一人一人を大切にできる
4	中学校の1学年6学級は多いと思うため
5	1学年1学級での学校の特性を気に入っているから

② 未就学児の保護者(回答数:1 件)

No	回答内容
1	現状の教育を適切と考えた結果であり、私立への児童の流出をさけられず、児童の人間関係が悪化した場合、転校しにくいなどのデメリットもある

(3) 学校規模適正化の検討に当たり重視すべきことについて [その他選択理由]

① 児童の保護者(回答数:9件)

No	回答内容
1	学校の機能以外に、福祉や社会教育機関、災害時の拠点等の社会資源の一つとして子どもから高齢者等、様々な人の需要に応えられる箱ものを作る視点
2	規模よりも教育者による
3	1クラスの生徒数に応じて、教員の負担を軽減するため、あるいは教師と児童間での不適切な問題を未然に防ぐためにもしっかりとサポート体制(副担任の役割を増やす、授業等のアシスタントを配置等)を考慮すべき
4	学区を定める上で児童及び保護者(通学における)に負担がないように努めることは絶対必要。併せて、教員の皆さまの負担軽減もあるべき。そもそも合併の前に教育に関する予算の配分を増やして貰うことを望む
5	DXを活用し、在宅学習等も検討してほしい。登校日は、週3日、他は在宅学習の日にしても面白い
6	児童さん、生徒さんの意見・考え・困っていること
7	学校の規模は、ある程度大きなものにして、1学級を少人数にしてほしい
8	コミュニティバスやスクールバスを運行させたら通学の負担は軽減される
9	スクールバス運行を検討してほしい

② 未就学児の保護者(回答数:2件)

No	回答内容
1	他地区と統廃合するならスクールバスを検討すべき
2	わかりません

(4) 過去1年間に市立小・中学校にどのような理由で行ったか [その他選択理由]

① 地区住民(回答数:11件)

No	回答内容
1	小・中学校校庭美化清掃
2	子どもが来年行く学校の下見
3	入学に向けての説明会等
4	校庭の清掃など
5	農業体験学習の指導
6	航空写真の見本を見て、購入するための訪問(年配者の付きそい)
7	シルバー人材センターで校庭と周辺の除草清掃作業
8	玉川沿いをウォーキングして小学校校庭まで歩き(週2~3回)。枚庭で遊ぶ(活動する)子どもたちの姿を見るのが楽しみです
9	自治会の練習やスポーツの場所です
10	散歩
11	授業の講師

(5) 学校教育以外で学校が担っている役割等として重要なものについて [その他選択理由]

① 地区住民(回答数:3件)

No	回答内容
1	地域(故郷)意識の高場
2	思いつかない
3	地域のためのコミュニティの場所

(6) 学校規模適正化に当たり、教育環境の充実以外で考慮すべきことについて [その他選択理由]

① 地区住民(回答数:9件)

No	回答内容
1	適正規模というワードは行政が勝手に決めたことで、生徒数が少なくても学校は維持すべきと思う。適正=経費削減
2	店や企業の誘致
3	地域においての役割はもちろんだが、児童・生徒のことを一番に考えた方策を検討すべきである
4	児童が安全に通学できる方法の確保、公共交通機関を利用する場合の経済的支援
5	選択肢の文章が分かりにくく、誰のためのアンケートなのかが理解できません
6	学校経費の合理化を目的とした統廃合ではないこと
7	通学路において歩道が途中ない場所がある。一般の人も自転車も、怖くて歩けない。早急に直してほしい
8	子どもたちが安全、安心に通学できること
9	現実とはもかく子どもを減少させてはいけません。施設は維持され使用されつづけることが最も大切です